

イザヤ 8 章 22 節 - 9 章 7 節「キリストの名」

1. 序論

クリスマスの余韻を味わいつつ、今日は 6 節を中心に見ていきます。

2. 本論

2.1 キリストの名

6 節「ひとりのみどりごが私たちのために生まれる。ひとりの男の子が私たちに与えられる。主権はその肩にあり、その名は「不思議な助言者、力ある神、永遠の父、平和の君」と呼ばれる。」

①「不思議な助言者」

イザヤ 25 章 1 節参照。神さまは、遠い昔からの不思議なご計画を成し遂げられました。

②「力ある神」

イザヤ 10 章 21 節参照。私たちが立ち返るべき力ある神、それこそ御子イエス・キリストです。たんなる人間のメシヤではない。力ある神として生まれたお方です。

③「永遠の父」

イザヤ書 63 章 16 節参照。「**私たちの贖い主**」であること。贖い主がどういうことをしてくださるのか。4 番目の名と密接に関係。

④「平和の君」

イザヤ 53 章 5 節参照。

完璧な罪の贖いがなされたからこそ、私たちに平安がもたらされました。心の平安というよりかは、神さまとの関係が平安ということです。神さまとの関係が平和だからこそ、神さまの愛をありあまるほどに受け取ることができ、私たちも神さまを愛することができます。

2.2 万軍の主の熱心

万軍の主の熱心が、キリストによる救いを成し遂げてくださいます。この「熱心」という言葉、他の箇所では「ねたみ」と訳されることもある言葉です。妬むほどの熱心さを主は持っておられます。消極的な意味ではなく、愛の関係を守りたいという熱心さを主はお持ちです。万軍の主が私たちに妬むほどに愛して下さったがゆえに、御子イエス・キリストが与えられました。神さまの妬むほどの愛、熱心さはつかの間の愛情でも、無計画な愛情でもない。いつまでも変わる事のない愛です。

3. 結論・適用

クリスマスの恵みは、キリストの自発的な御思いと万軍の主の妬むほどのご愛によって成し遂げられました。ただただ感謝するばかりです。どうか願わくば、これから来る次の年においても、私たちの口に主への賛美と感謝がありますように。